



愛知県児童福祉施設長会  
第8代目会長

神谷 常 憲

## 設立40周年に寄せて

愛知県児童福祉施設長会が設立40周年を迎えるに至りましたこと誠に喜ばしく思います。また、ここに機関誌「朋」第9号合併号として記念誌を発行できますこと二重の喜びであります。会長として関係者のみなさまに衷心より深く感謝の意を表します。また、日々の施設運営に関しましては、広く地域社会の方々を始めとし、多くの企業や関係諸機関のみなさまに大変お世話になっておりますこと、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

「愛知県児童福祉施設長会は、愛知県健康福祉部児童家庭課所管の児童福祉施設（乳児院・児童養護施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設）の施設長を会員とする組織です。（中略）児童を対象とした夏季球技大会（ソフトボール・卓球）、フットサル大会、マラソン大会、スキー村、高校生交流会、音楽の集いなどを行っています」

これは、ポータルサイト「児童福祉の架け橋」に本会を紹介する文章として掲載されているものです。各々の施設のホームページにもリンクされていますので読者のみなさまに是非とも、まずは一度このポータルサイトをご覧くださいたいと願います。

ところで、平成20年から30年までのこの10年間で社会福祉施設を取り巻く制度や環境は随分様変わりしました。平成22年4月に開設した「風の色」を皮切りに、23年4月には「オリーブ」、同年7月に「なかよしこよし」、25年2月に「宇宙（そら）」、そして26年4月に「あいさんテラス」と5カ所の児童養護施設が創設されました。

また、情緒障害児短期治療施設は児童心理治療施設へと名称変更されました。そして、社会福祉法が改正され29年4月より社会福祉法人制度改革が施行されました。

さらに、全ての子どもの育ちを保障する観点から29年8月には「新しい社会的養育ビジョン」が公表され、社会的養護の将来像が示されました。このビジョンにつきましてはさまざまなご意見があることを承知しておりますが、浅学非才な小生の私見はここでは控えさせていただきます。

あと1年ほどで平成の時代は終わり、2年後には東京オリンピックが開催されます。自動車が自動運転になり、AIがますます進化して私たちの日常生活の中にどんどん入ってくるようになると、この先の世の中は激変する…と言われております。会長として今後も本会の目的達成のため先輩諸先生方のご意思を受け継ぎ後進に繋げ、関係者各位と協力しできる限りのことを精一杯務めさせていただく所存であります。「子どもたちのために！」と誓った、自分自身のために、自分自身の信念を忘れずに。



## 祝 辞

大 村 秀 章  
愛知県知事

「愛知県児童福祉施設長会」が発足40周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

さまざまな理由で親と一緒に暮らせない子どもなどが入所する児童福祉施設は、子どもの健やかな成長や自立を支援する施設として、大きな役割を担っておられます。

また、県内の乳児院、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設の施設長のみなさまからなる貴会は、長年にわたり「夏季球技大会」、「高校生交流会」、「音楽の集い」といった各種行事の開催や施設職員研修を実施されるなど、要保護児童の福祉向上に大きく貢献してこられたところであります。

これもひとえに、歴代の会長をはじめとして、各施設の施設長、職員のみなさま方の児童福祉に対する並々ならぬ情熱と、長年にわたるご努力の賜物であり、心より敬意を表する次第であります。

近年、子どもの貧困や児童虐待の増加、地域の子育て力の低下など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきております。

こうした中、平成28年に児童福祉法が改正されました。子どもが権利の主体であることが明確化され、家庭への養育支援から代替養育までの社会的養育の充実とともに、児童相談所の体制強化や、里親による養育の推進等が盛り込まれました。

さらに法改正の理念を踏まえ、平成29年8月に国は新たな社会的養育のあり方を示す「新しい社会的養育ビジョン」を公表しました。

このビジョンでは、市町村による在宅での社会的養育支援体制の構築や施設養育の小規模化、地域分散化、高機能化などのさまざまな改革項目が挙げられております。

施設養育をめぐる環境が大きく変化していこうとしている中、児童福祉施設には虐待など不適切な養育を受けた子どもたちの個々の状況に応じた生活支援が求められるなど、児童福祉施設による専門性の高い社会的養育は、今後も大変重要な役割を果たすことが期待されているところであります。

社会的養育を必要とする子どもたちが、健やかに育ち、豊かな人生を送れるように施設の皆さんと一緒に考え、取り組んでまいりたいと考えております。

どうか、今後とも「愛知県児童福祉施設長会」におかれましては、子どもの最善の利益が保障される社会の実現と児童福祉のさらなる向上に寄与いただきますようお願い申し上げますとともに、各施設長、職員のみなさまのご健勝を祈念いたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。



## 設立40周年を祝して

前田 清

愛知県尾張福祉相談センター センター長

愛知県児童福祉施設長会が設立40周年を迎えられたこと、心からのお祝いとともに、これまでの児童福祉におけるご尽力に対して、あらためてお礼申し上げます。

戦後の戦災孤児対策として始まった児童養護施設はその役割を果たしたのち、長らく行政の課題として放置されてきたように思われます。ところが児童虐待が大きな社会問題となり、特別養子縁組の制度化や「コウノトリのゆりかご」の登場なども相まって、これからの社会的養護のあり方が大きく問われる時代となりました。その中でこれまで社会的養護の中核を担ってきた児童養護施設も、大きな見直しを迫られています。昨年公表された「新しい社会的養育ビジョン」からは、これからの方向として家庭養育優先の下、従来の養護施設の消滅を意図しているような内容となっています。時代の流れとして、施設の小規模化や家庭的養育の重要性は否定しませんが、これまで児童養護施設が積み上げてきた実績の評価もなく、受け皿となる里親の整備もない中で、いきなり里親中心に切り替えるというのは、現実にそぐわないあまりに乱暴な変革であると考えます。

里親推進にあたっては、特に養育里親の絶対数が不足していることは明らかです。社会的養護としての里親制度は、日本の精神風土にまだまだ馴染めてない印象もあります。里親を拡大、定着させるために里親登録の啓発はもちろん大切ですが、単に児童福祉法のみでなく、家や家族のあり方を含めた民法の大幅な改正が必要ではないでしょうか。

一方で里親養育の方が、施設養育に比べて安上がりだという試算も出ています。直近の数字では、児童措置費支弁金の1人当たりの単価は、児童養護施設が28万円余に対して、里親では13万円となっています。今回のビジョンが単に経済的な面だけを考慮して記されていることはないでしょうが、家族が育てられない子どもの養育に、無駄に税金をかけたくないという思いは全くないのでしょうか？

とはいえ施設側も、これまでの社会的養護を担ってきた自負と実績の上に、現状の社会環境に適応した新たな養育知識とスキル、さらには理念が求められます。さらに里親の倍以上の投資がされているのですから、それに見合った成果が求められます。制度的にはまだまだ流動的な面はありますが、児童養護施設およびその職員は、社会的養護の専門機関、あるいは専門家としての自覚を持ち、その機能、能力を日々高めていく努力を続けることが望まれます。養護に欠ける子どもたち1人1人の成長のために、安全、安心な生活の場を提供するとともに、保護者を含めた家族間調整においても、今後ますます重要な役割を果たされることを期待しています。



中部児童養護施設協議会  
会長

太田 一平

## 求められる愛知県施設長会の使命とは

愛知県児童福祉施設長会が設立40周年を迎えましたことを心よりお喜び申し上げます。

愛知県児童福祉施設長会が、先人たちのたゆまない努力に支えられ今日に至りましたことは非常に感慨深いものがあります。また、この機関誌「朋」が長きにわたりさまざまな養育の営みの実践を記録として綴（つづ）ってまいりましたその業績は賞賛に値するものであります。

### 社会的養育ビジョンの意味するもの

平成29年8月に「新しい社会的養育ビジョン」が公開されました。ビジョンは、社会的養育（社会的養護よりも広い概念で、保育所などの社会と保護者が日々協働しながら子どもを養育するものも含む）に関する基本方針を示したものであり、これまでの施設養護中心の社会的養護を家庭養護へと大きくシフトさせるという、これからの社会的養護のあり方を大きく変える内容となっています。

このこと自体は、肯定的に受け止めるならば、決して私たちの積み上げてきた日々の営みを否定するものではなく、社会的養護における養育の営みの専門性を基に、新たな社会ニーズが求められたと理解しなければなりません。

### 愛知県児童福祉施設長会の使命とは

これからの児童福祉施設は、児童家庭支援センターやフォスタリング機関を核に、地域福祉の拠点としての機能強化が求められていきます。ビジョンには高い数値目標が掲げられ、そのロードマップが示されましたが、その質（高機能化）と量を確保するために施設の高機能化と予算の確保がビジョンの行方を決めることとなります。

その質（高機能化）は施設の課題であり、量（予算）は国をはじめとする行政の課題となります。国で予算が確保されたとしても、地方自治体の予算が確保されなければ、施策が実現しないということになります。また、この逆もあります。また予算の確保は、行政だけの課題ではなく、その施策を後押しする施設側の質（高機能化）が十分に担保されてこそ施策の推進力となります。

しかし、ビジョンは理念と現場実態の隔たりが余りにも大き過ぎました。それ故にまだまだ養育ビジョンの実現に向けては多くの課題が山積しています。掲げられた数値目標のために数字あわせに走り、子どもの生きづらさを加速させてしまうことのないように、愛知県行政と愛知県児童福祉施設長会が密に協働しながら進めていかなければなりません。子どもを犠牲にしないためにも、愛知県児童福祉施設長会の果たすべき使命は多大なものがあります。

最後に、この大きな変革期において、全国児童養護施設協議会から中部児童養護施設協議会そして中部6県1市の県・市養協が、それぞれの組織や地域の特色を生かしながら連携を図り、愛知県から中部へそして全国へ発信していくことを願っています。



竜陽園  
園長

伊藤 貴之

## 愛知県児童福祉施設長会の40周年と私の30年間 (乳児院の立場から)

はじめに、愛知県児童福祉施設長会に所属している会員として、このたびの40周年に際し、誇らしいと同時にうれしく思います。

私自身も、約30年間にわたり、研修会の運営、行事の段取り、措置費や補助金の実務、医療福祉に関連する制度等ご教示くださったことへの御礼の気持ちでいっぱいです。そんな私における愛知県児童福祉施設長会に関する思い出とあわせて、本会組織の中では29施設中、乳児院は4施設しかありませんが、乳児院の立場から、全国的な動向等も含めて振り返ってみたいと思います。

さて、本会には各種専門委員会が設置されていますが、私は最初に「研修運営委員会（当時）」の所属でした。細野委員長（梅ヶ丘学園）のもと、児童相談所と児童福祉施設の職員が合同で分科会を行う研修運営スタイルが特徴でした。

改組で「広報研修委員会（当時）」の所属となり、喜多委員長（名古屋文化キンダーホルト）のもと、ワークショップ等演習形式のプログラムの導入が特徴的でした。

再度改組で「研修委員会」の所属となり、太田委員長（八楽児童寮）のもと、全国的な研修会のノウハウを踏まえた研修会運営に関するマニュアルの制定をはじめ、講師充実にに向けた予算拡充も図られました。

その後「予算対策委員会（当時）」に所属が変更となり、金原委員長（米山寮）のもと、幼稚園就園補助金の制度化（当時はまだ幼稚園就園費が措置費で支弁されていなかった）及び民間社会福祉施設運営費補助金の人件費格付制度の段階的廃止と福祉事業ポイント加算制度への移行対策など激変期でした。

改組で「調査研究委員会」の所属となり、金井委員長（溢愛館）のもと、福祉事業ポイント加算制度の状況調査に基づき制度改善に向けての提案等を行いました。

その後は現在まで「総務委員会」の所属となり、神谷会長の永年のノウハウを踏まえたリーダーシップと歴代の委員長＝室田委員長（梅ヶ丘学園）、上川委員長（岡崎平和学園）、廣瀬委員長（オリーブ）、中屋委員長（梅ヶ丘学園）＝のもと、本会の役員会が円滑に運営され、会計、後援名義使用承認事務及び助成金交付事務などを担当しました。特に思い出深いのは、機関誌「朋」の1号から7号まで、松田広報委員長（中日青葉学園あおば館）と連続7年間にわたりペアを組み、あうんの呼吸で会計業務を行いました。

次に乳児院を取り巻く動向等について振り返ると、一番大きな事項は、対象児童の年齢要件が平成10年と16年に改正されたことです。平成1桁のころは、児童が満1歳になると、措置延長通知書を受領したことを思い出します。また、乳児院の全国的業界団体である、全国乳児福祉協議会、下部組織の東海北陸ブロック乳児院協議会及び愛知県乳児院協議会では、要保護乳幼児の養育の質の向上と地域格差の是正に取り組むと同時に、養育の標準化に資するべく、「乳児院養育指針」「乳児院倫理綱領」「乳児院の研修体系」「乳児院におけるアセスメントガイド」「乳児院における小規模化あり方検討委員会報告書」をはじめ15余りの成果物を社会のニーズに対応して取りまとめ、乳児院における日常の乳幼児養育及び家庭支援等に役立っています。

現在の喫緊の課題は、「新しい社会的養育ビジョン」及び「都道府県推進計画の見直し」に伴う、厚生労働省の専門委員会及びプロジェクトチームにおいて乳児院の業界団体としての説明と主張を引き続き行うことです。

結びに、愛知県健康福祉部児童家庭課と有意義かつ密な連携を大切に考えて、今後も臨んでまいります。あわせて、乳幼児養育に特化した業務や課題には、関係の乳児協等で丁寧に取り組んでまいりたいと思います。